



操作マニュアル

表原稿編

e.Typist エントリー基本操作

目次

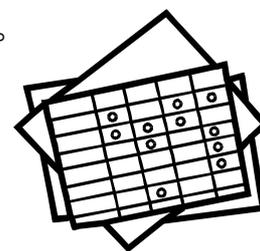
	ページ
1. はじめに	2
2. 認識範囲の設定	3
2-1. 自動で設定	3
2-2. 手動で設定	3
3. 認識	4
4. データ転送	5
作業例 1. 罫線・画像の表示	6
作業例 2. 罫線の入っていない表の認識	8
作業例 3. 少し複雑な表の認識	12

本マニュアルでは、表原稿の認識についての説明のみとなっています。
本マニュアル以外の、基本的な操作方法をお知りになりたい場合は、「e.Typist
エントリー操作マニュアル【基本操作編】」をご参照ください。

1. はじめに

e.Typist エントリーで認識できる表は以下のような表になります。

- ・ 碁盤の目のように単純な表
- ・ 表の罫線と文字が接触していないもの
- ・ 網掛けの入っていない表



次のような原稿は e.Typist エントリーでは難しくなります。

- ・ 段組が複雑な表
- ・ 履歴書、申請書、納品書等の提出書類

e.Typist エントリーでは、取り込んだ表のセル幅や高さをそのまま全く同じ形で再現する事はできません。“ひな形ができる”程度にお考えください。

履歴書、申請書、納品書等に文字を入力し、印刷する事が目的であれば「ピタッとフォーム」や「やさしく PDF へ文字入力」がぴったりです！

「ピタッとフォーム」や「やさしく PDF へ文字入力」であれば、スキャナから取り込んだ書類に文字を入力してそのまま印刷することが可能です。



弊社ホームページに30日間お試し頂ける体験版をご用意しております。

是非、ご利用ください。

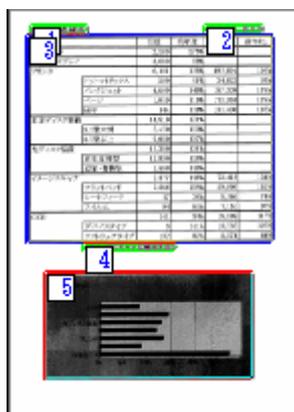
<http://mediadrive.jp/>

2. 認識範囲の設定

表原稿の場合、表の種類によってはレイアウト解析がうまくできないことがあります。通常、縦・横が罫線できちんと区切られている表の場合は自動で設定することができますが、縦・横が罫線できちんと区切られていない表や罫線が欠けている表、自動でレイアウト枠が正しく設定できないものは手動でレイアウト枠の設定を行ってください。

2-1. 自動で設定

レイアウトボタン  で認識する範囲に枠を作成します。

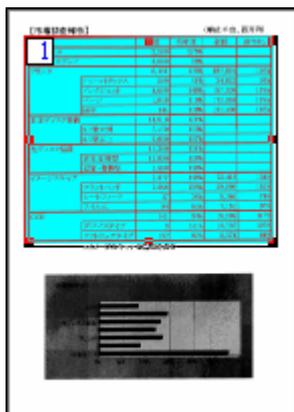


左図のようにレイアウト枠が作成されます。
枠の左上に表示される数字は認識を行う順番です。
枠の色によって、領域が種別されます。

- ・ 緑枠—文章領域
- ・ 青枠—表領域
- ・ 赤枠—図領域

枠の順番、領域の種別が間違っている場合には、
各々の枠をクリックし、枠ごとに変更することができます。

2-2. 手動で設定



枠を作成したい部分をマウスでドラッグして囲みます。
囲った順に認識順番の番号が付きます。
囲った枠ごとに「領域種別指定」を行う必要があります。



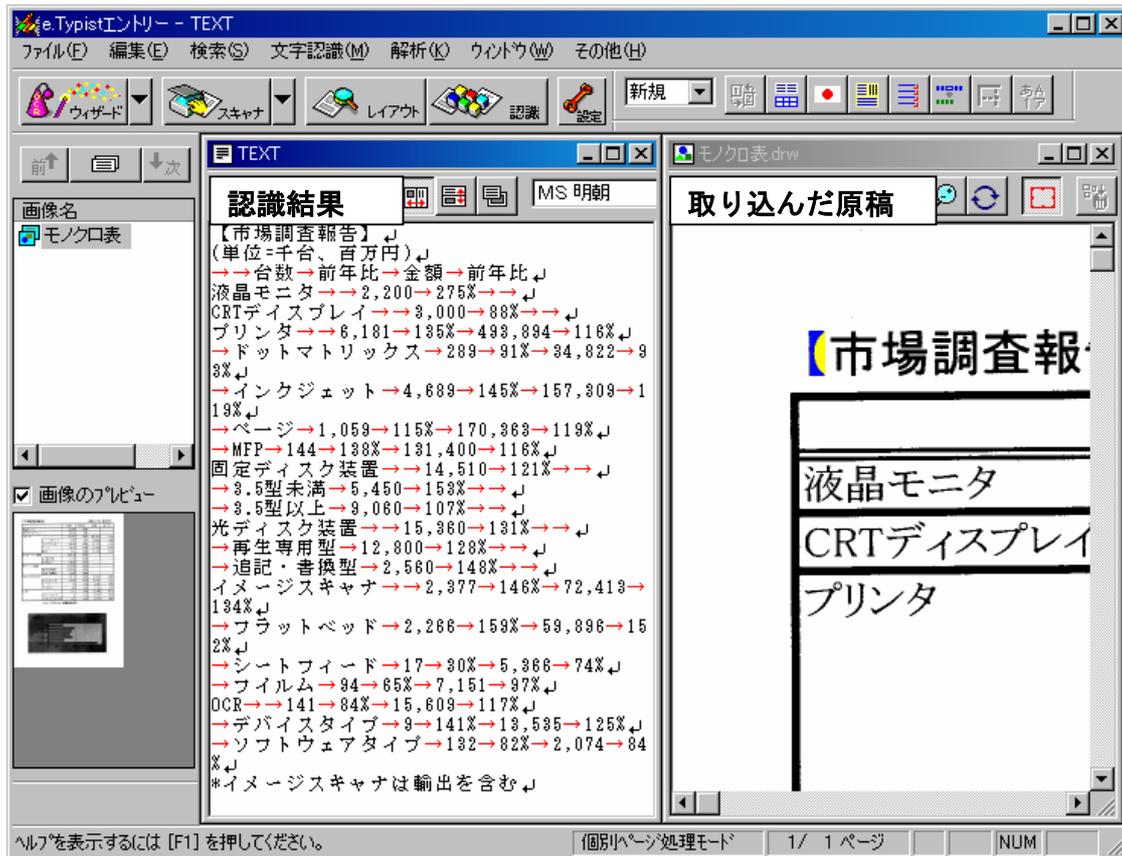
このボタンで「領域種別指定」を行います。

※一般的な表原稿の場合、段組の指定は「横多段  」としてください。

3. 認識

認識ボタン  を押すと認識が始まります。

認識が終わると、取り込んだ原稿イメージと認識結果の二つに画面が左右に分かれます。



認識結果の「TEXT」ウィンドウに罫線は表示されません。文字だけが左詰め状態で表示され、罫線の代わりに「→」が表示されます。この「→」は「TAB (タブ)」という制御記号で、データの区切り位置を視覚的に表しています。

データ転送で Excel に貼り付けた場合には「→」の位置でセルが分かります。

4. データ転送

認識が終わったら「編集メニュー」から「データ転送」で「EXCEL」を選択します。
 下図のように、認識結果が Excel に貼り付けられます。

	A	B	C	D	E	F
1	【市場調査報告】					
2	(単位=千台、百万円)					
3			台数	前年比	金額	前年比
4	液晶モニタ		2,200	275%		
5	CRTディスプレイ		3,000	88%		
6	プリンタ		6,181	135%	493,894	116%
7		ドットマトリッ	289	91%	34,822	93%
8		インクジェッ	4,689	145%	157,309	119%
9		ページ	1,059	115%	170,363	119%
10		MFP	144	138%	131,400	116%
11	固定ディスク装置		14,510	121%		
12		3.5型未満	5,450	153%		
13		3.5型以上	9,060	107%		
14	光ディスク装置		15,360	131%		
15		再生専用型	12,800	128%		
16		追記・書換	2,560	148%		
17	イメージスキャナ		2,377	146%	72,413	134%
18		フラットベッ	2,266	159%	59,896	152%
19		シートフィー	17	30%	5,366	74%
20		フィルム	94	65%	7,151	97%
21	OCR		141	84%	15,609	117%
22		デバイスタ-	9	141%	13,535	125%
23		ソフトウェア	132	82%	2,074	84%
24	*イメージスキャナは輸出を含む					

認識結果でタブ「→」が挿入されたところでセルが分かれて貼り付けられます。



このときに、レイアウトイメージや罫線部分および図領域の画像は再現されません。文字だけが貼り付けられます。位置の修正や罫線の追加は Excel に貼り付け後、改めて行ってください。

作業例 1. 罫線・画像の表示

e.Typist エントリーでは、RTF 形式で保存することにより下図のように、Word 上で罫線を含む形で認識結果を表示させることが可能です。

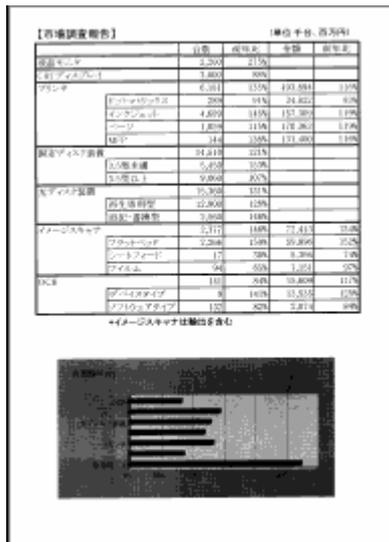
その際に、取り込んだ原稿に含まれる「図領域」の画像も一緒に保存できます。

※罫線はある程度再現できますが、元の原稿と全く同じにはなりません。

必要以上に線が入る場合があります。その様な場合は Word 上での修正作業が必要になります。

また、実際に罫線の入っていない表の場合でも「表領域」で認識させると罫線が表示されます。

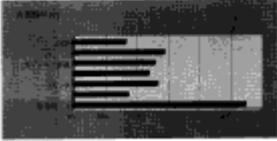
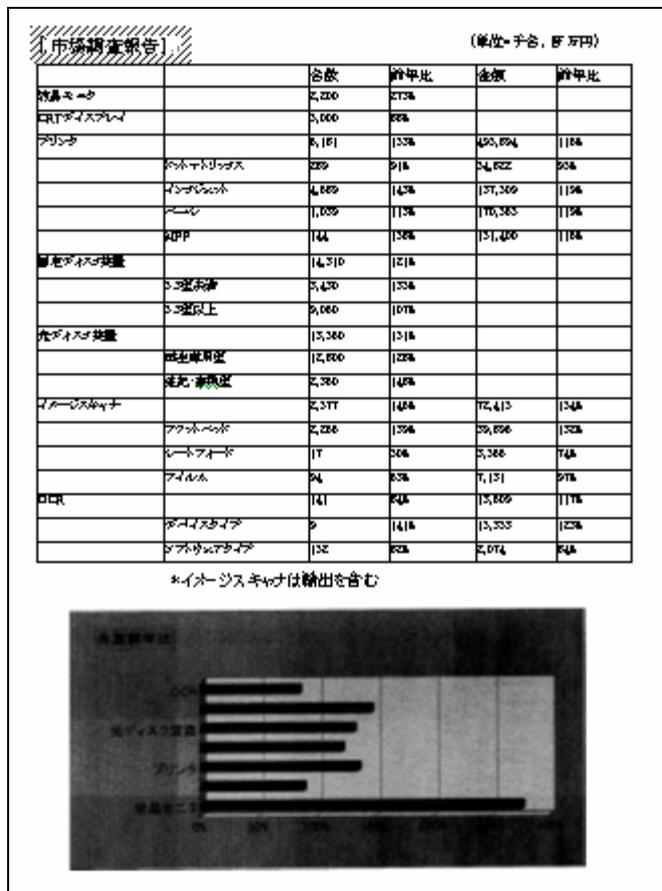
元の原稿



【西暦調査報告】 (単位:千台、百万円)

	台数	前年比	金額	前年比
総計	2,200	27%		
RTFディスプレイ	5,000	8%		
プリンタ	8,181	13%	495,894	11%
ネットワーク	229	9%	24,622	20%
インターネット	4,889	14%	127,269	11%
メール	1,036	11%	116,283	11%
ERP	144	12%	151,400	11%
顧客データベース	14,310	12%		
システム	5,420	13%		
システム以上	9,060	10%		
データベース	15,280	15%		
顧客データベース	12,660	12%		
メール・検索	2,380	14%		
インターネット	2,377	14%	72,413	15%
ネットワーク	2,226	13%	29,896	12%
レポート	7	50%	5,266	74%
ファイル	24	63%	7,121	27%
ローカル	141	64%	15,809	11%
インターネット	9	14%	15,333	12%
インターネット	132	62%	2,074	54%

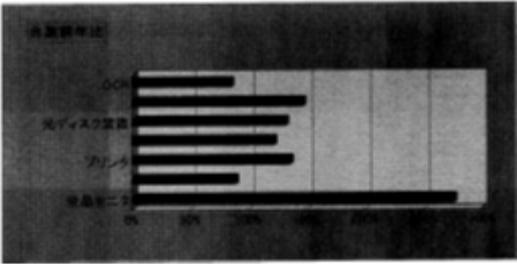
*インターネットは輸出を含む

【市場調査報告】 (単位:千台、百万円)

	台数	前年比	金額	前年比
総計	2,200	27%		
RTFディスプレイ	5,000	8%		
プリンタ	8,181	13%	495,894	11%
ネットワーク	229	9%	24,622	20%
インターネット	4,889	14%	127,269	11%
メール	1,036	11%	116,283	11%
ERP	144	12%	151,400	11%
顧客データベース	14,310	12%		
システム	5,420	13%		
システム以上	9,060	10%		
データベース	15,280	15%		
顧客データベース	12,660	12%		
メール・検索	2,380	14%		
インターネット	2,377	14%	72,413	15%
ネットワーク	2,226	13%	29,896	12%
レポート	7	50%	5,266	74%
ファイル	24	63%	7,121	27%
ローカル	141	64%	15,809	11%
インターネット	9	14%	15,333	12%
インターネット	132	62%	2,074	54%

*インターネットは輸出を含む



<操作手順>

認識後、データ転送をせずに e.Typist エントリー上で保存の作業を行います。
「ファイル」から「名前を付けて保存」を選択します。

「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。



「保存する場所」：よく使用する分かりやすい場所に変更してください。

「ファイル名」：分かりやすい名前を入力してください。

「ファイルの種類」：RTF ファイルを選択します。

「保存範囲」：保存したい範囲にあわせて選択してください。

「RTF のオプション」：必要に応じてチェックを入れます。

「画像保存」：取り込んだ原稿に写真などの図領域がある場合にチェックを入れます。

「罫線出力」：取り込んだ原稿に罫線が入っている場合にチェックを入れます。

表領域でレイアウト枠が作成された場合はチェックを付けなくても出力されます。

※ファイルの種類が「BMP」や「TIFF」と表示される場合には画像ウィンドウが選択されています。「TEXT」ウィンドウを選択し直してから再度「名前を付けて保存」を選択してください。

作業例2. 罫線のない表の認識

罫線の入っている表の認識はできましたが、今度は罫線の入っていない表で認識作業を行っていきましょう。

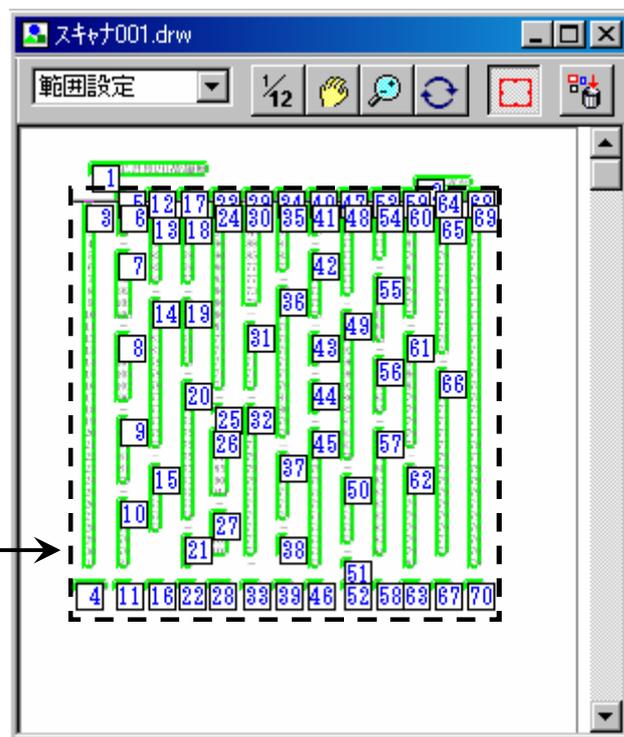
ここでは例として右図のような表を使って認識を行って見ます。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	91	—	—	88	105	75	71	73	75	81	—	77
2	84	81	79	90	100	79	71	73	75	81	81	77
3	84	83	79	90	944	81	73	75	75	83	79	77
4	—	85	79	90	88	81	—	77	75	81	79	77
5	91	85	79	90	85	83	73	77	77	79	79	77
6	99	85	79	86	77	77	73	77	—	81	77	77
7	99	83	77	85	77	—	73	77	81	81	77	79
8	99	—	—	86	73	77	73	77	81	79	79	77
9	105	83	75	86	73	77	75	—	81	79	77	77
10	105	83	75	86	—	77	75	83	81	77	77	77
11	—	81	75	83	71	75	—	90	81	—	77	77
12	107	81	75	77	71	75	75	98	83	79	75	77
13	107	81	75	75	71	75	77	92	—	81	75	77
14	107	79	75	73	71	77	77	96	85	85	—	77
15	103	79	—	71	71	77	—	98	86	86	75	77
16	102	79	75	71	71	79	77	92	86	83	77	75
17	96	77	75	—	—	81	77	86	85	79	75	75
18	—	77	73	71	73	80	77	83	85	79	77	75
19	88	77	73	—	73	79	—	81	—	79	77	77
20	86	75	75	71	75	79	75	81	81	79	77	77
21	84	73	75	73	77	—	75	81	79	77	77	79
22	81	—	75	77	79	77	75	79	79	—	79	77
23	81	73	73	85	79	77	75	—	81	79	79	79
24	79	73	73	90	79	77	75	77	83	79	79	79
25	—	73	77	944	77	77	75	75	83	79	79	79
26	79	73	77	—	77	77	73	73	83	79	79	77
27	79	75	79	105	77	75	71	73	83	79	79	79
28	79	75	—	109	77	—	73	73	83	79	79	79
29	79	—	83	109	77	73	73	73	83	79	77	79
30	79	—	83	105	77	73	73	—	81	79	77	79
31	81	—	86	—	—	—	73	73	—	81	—	79

平均値 79.2 70.3 66.9 165.5 98.2 69.7 64.6 73 73 74.9 72.5 77.5

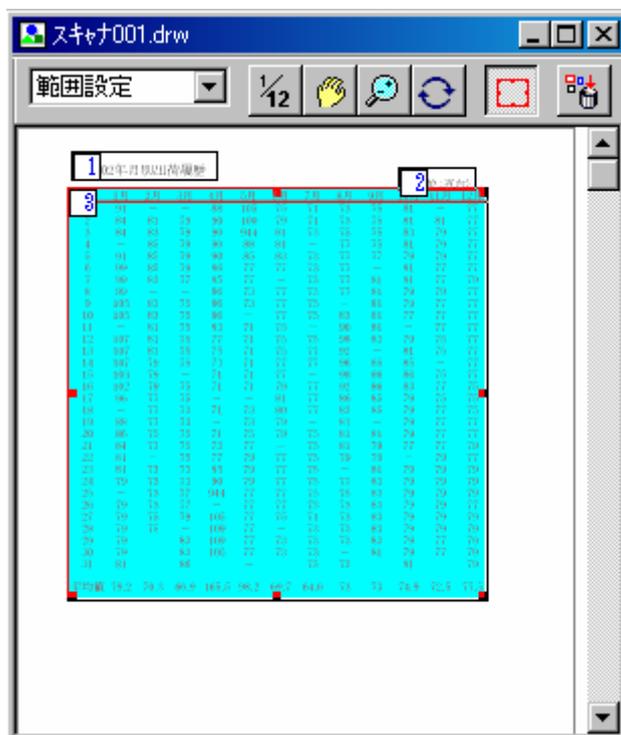
表原稿の場合、罫線が入っている部分は自動的に「表領域」として判断されますが、罫線の入っていない表の場合には右図をみて分かる様に「表領域」として判断ができず「文章領域」と判断されてしまいます。

罫線が入っていないので「表領域」として判断されていません。



※上図のように「文章領域」として細かく分割されてレイアウト枠が作成された場合には間違っって作成されたレイアウト枠を一つずつ修正するのは手間が掛かりますので一旦作成された枠を全て削除して作り直しましょう。レイアウト枠を全て削除するには「レイアウト取消」ボタンを使用します。





左のように3つの枠を作成したら、枠の設定を行います。

3番の枠をクリックで選択し、画面右上に表示されている  (自動判定)

ボタンを  (表領域) に変更します。これで、表としての認識が行われます。

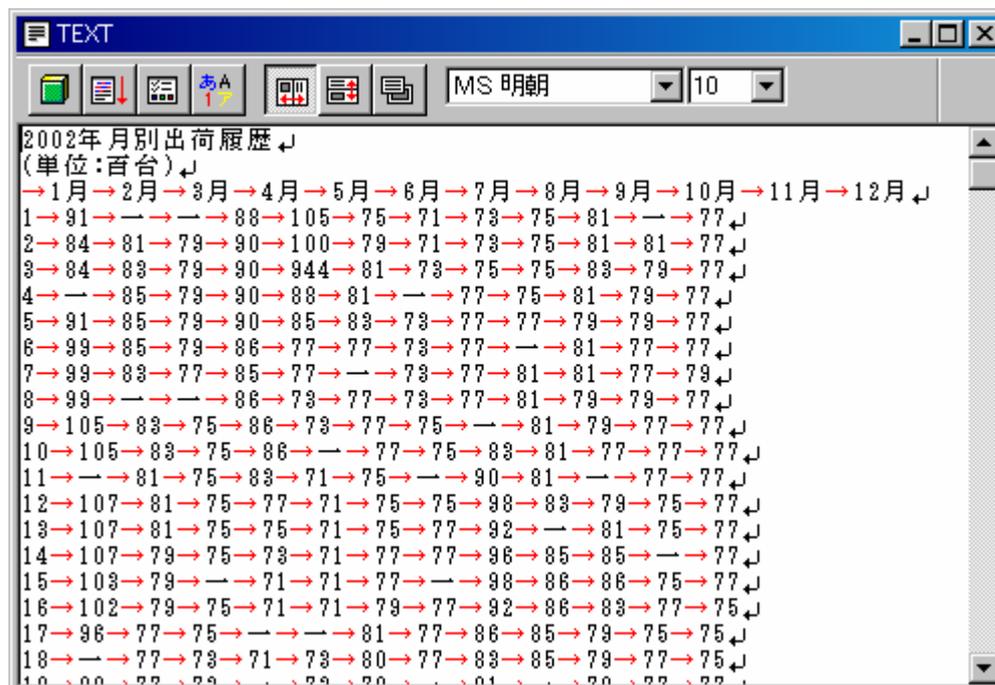
ただし、このままでは表として正しく認識が行えないので、次の設定を行います。

画面右上の                   

補助線が引き終わりましたら「OK」をクリックして「補助線」ダイアログを閉じます。
この状態で「レイアウト」ボタンをクリックすると、下図の様に「表領域」として正しく枠が作成されます。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	91	—	—	88	105	75	71	73	75	81	—	77
2	84	81	79	90	100	79	71	73	75	81	81	77
3	84	83	79	90	944	81	73	75	75	83	79	77
4	—	85	79	90	88	81	—	77	75	81	79	77
5	91	85	79	90	85	83	73	77	77	79	79	77
6	99	85	79	86	77	77	73	77	—	81	77	77
7	99	83	77	85	77	—	73	77	81	81	77	79
8	99	—	—	86	73	77	73	77	81	79	79	77
9	105	83	75	86	73	77	75	—	81	79	77	77
10	105	83	75	86	—	77	75	83	81	77	77	77
11	—	81	75	83	71	75	—	90	81	—	77	77
12	107	81	75	77	71	75	75	98	83	79	75	77
13	107	81	75	75	71	75	77	92	—	81	75	77
14	107	79	75	73	71	77	77	96	85	85	—	77
15	103	79	—	71	71	77	—	98	86	86	75	77
16	102	79	75	71	71	79	77	92	86	83	77	75
17	96	77	75	—	—	81	77	86	85	79	75	75
18	—	77	73	71	73	80	77	83	85	79	77	75
19	88	77	73	—	73	79	—	81	—	79	77	77
20	86	75	75	71	75	79	75	81	81	79	77	77
21	84	73	75	73	77	—	75	81	79	77	77	79
22	81	—	75	77	79	77	75	79	79	—	79	77
23	81	73	73	85	79	77	75	—	81	79	79	79
24	79	73	73	90	79	77	75	77	83	79	79	79
25	—	73	77	944	77	77	75	75	83	79	79	79
26	79	73	77	—	77	77	73	73	83	79	79	77
27	79	75	79	105	77	75	71	73	83	79	79	79
28	79	75	—	109	77	—	73	73	83	79	79	79
29	79	—	83	109	77	73	73	73	83	79	77	79
30	79	—	83	105	77	73	73	—	81	79	77	79
31	81	—	86	—	—	—	73	73	—	81	79	79
平均値	79.2	70.3	66.9	165.5	98.2	69.7	64.6	73	73	74.9	72.5	77.5

「補助線」ダイアログで追加した補助線は画面ウィンドウに表示されませんが、認識処理を行うと、以下のような結果になり、表として正しく認識できていることが分かります。



この状態で「データ転送」を行うと、下図のように Excel に貼り付けられます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	2002年月別出荷履歴								
2	(単位:百台)								
3		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
4	1	91	—	—	88	105	75	71	73
5	2	84	81	79	90	100	79	71	73
6	3	84	83	79	90	944	81	73	75
7	4	—	85	79	90	88	81	—	77
8	5	91	85	79	90	85	83	73	77
9	6	99	85	79	86	77	77	73	77
10	7	99	83	77	85	77	—	73	77
11	8	99	—	—	86	73	77	73	77
12	9	105	83	75	86	73	77	75	—
13	10	105	83	75	86	—	77	75	83
14	11	—	81	75	83	71	75	—	90
15	12	107	81	75	77	71	75	75	98
16	13	107	81	75	75	71	75	77	92
17	14	107	79	75	73	71	77	77	96
18	15	103	79	—	71	71	77	—	98
19	16	102	79	75	71	71	79	77	92
20	17	96	77	75	—	—	81	77	86
21	18	—	77	73	71	73	80	77	83
22	19	88	77	73	—	73	79	—	81
23	20	96	75	75	71	75	70	75	91

あとは Excel 上で罫線の追加作業と体裁を整える作業を行います。

Excel に転送せずに RTF 形式で保存を行い Word で開くと、下図のように罫線が引かれます。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	84	81	79	80	100	79	71	73	73	81	81	77
3	84	83	79	80	944	81	73	73	73	80	79	77
4	—	83	84	88	81	—	77	73	81	73	77	77
5	91	83	79	80	83	83	73	77	77	79	79	77
6	88	83	79	88	77	77	73	77	—	81	77	77
7	88	83	77	83	77	—	73	77	81	81	77	79
8	91	—	—	88	73	77	73	77	81	73	73	77
9	105	83	73	88	73	77	73	—	81	79	77	77
10	105	83	73	88	—	77	73	83	81	77	77	77
11	—	81	73	83	71	73	77	81	—	77	77	77
12	107	81	73	77	71	73	73	86	83	79	73	77
13	107	81	73	73	71	73	77	82	—	81	73	77
14	107	79	73	73	71	77	77	86	83	83	—	77
15	103	73	—	71	71	77	—	81	81	81	73	77
16	102	79	73	71	71	79	77	82	88	83	77	73
17	96	77	73	—	—	81	77	88	83	73	73	73
18	—	77	73	71	73	80	77	83	83	79	77	73
19	88	77	73	—	73	73	—	81	—	73	77	77
20	88	73	73	71	73	79	73	81	81	79	77	77
21	84	73	73	73	77	—	73	81	79	77	77	73
22	88	—	73	77	73	77	73	73	—	73	77	77
23	81	73	73	83	79	77	73	—	81	79	79	73
24	79	73	73	80	79	77	73	77	83	79	79	73
25	—	73	77	944	77	77	73	73	83	79	79	73
26	79	73	77	—	77	77	73	73	83	79	79	77
27	79	73	79	103	77	73	71	73	83	79	79	73
28	73	73	—	88	77	—	73	73	83	73	73	73
29	79	—	83	109	77	73	73	73	83	79	77	73
30	79	—	83	103	77	73	73	—	81	79	77	73
31	81	—	88	—	—	73	73	—	—	—	—	73
合計	79.2	70.3	88.9	183.3	96.2	89.7	84.8	73	73	74.9	72.3	77.3

作業例3. 少し複雑な表の認識

簡単な表原稿の認識は出来ました、次は少し複雑な原稿で認識作業を行ってみましょう。

ここでは例として右図のような原稿で作業を行ってみましょう。

ENGINEERING SHEET		番号	MD-315	1/1
納 先	山田商事株式会社	目次	目次	目次
品 名	Sample原稿	1	2	3
題 名	OCRとは	この資料は、この資料に基づいて作成されたものであり、著作権は山田商事株式会社にあります。		
<p>OCR (Optical Character Recognition, オーシーアール、光学文字認識) とは、手書きや印刷された文字を、イメージスキャナによって読みとり、コンピュータが利用できるデジタルの文字コードに変換する技術です。</p> <p>これまでパソコンのソフトとして発展してきた分野は、決ったアルゴリズムの計算処理を、速いスピードで実行するという、人間にとってきわめて不得意な部分でした。これと反対方向の、人間にとって得意な分野であるパターン認識(文字認識)をソフトで実現したのがOCRソフトです。</p>				
用 途	発 行 先	発 行 日	作成日	2003.04.21
<input type="checkbox"/> 承認用			目次	鈴木
<input type="checkbox"/> 参考用				
<input checked="" type="checkbox"/> 検討用				
<input type="checkbox"/> 確認用				

このような原稿の場合、レイアウト枠は大きな一つの表として判断されます。そのまま認識を行ってもよいのですが、データ転送にて「Excel」に貼り付ける事を考えると、手で枠を分割して設定した方が貼り付け結果はよくなります。

ENGINEERING SHEET		番号	MD-315	1/1
納 先	山田商事株式会社	目次	目次	目次
品 名	Sample原稿	1	2	3
題 名	OCRとは	この資料は、この資料に基づいて作成されたものであり、著作権は山田商事株式会社にあります。		
<p>OCR (Optical Character Recognition, オーシーアール、光学文字認識) とは、手書きや印刷された文字を、イメージスキャナによって読みとり、コンピュータが利用できるデジタルの文字コードに変換する技術です。</p> <p>これまでパソコンのソフトとして発展してきた分野は、決ったアルゴリズムの計算処理を、速いスピードで実行するという、人間にとってきわめて不得意な部分でした。これと反対方向の、人間にとって得意な分野であるパターン認識(文字認識)をソフトで実現したのがOCRソフトです。</p>				
用 途	発 行 先	発 行 日	作成日	2003.04.21
<input type="checkbox"/> 承認用			目次	鈴木
<input type="checkbox"/> 参考用				
<input checked="" type="checkbox"/> 検討用				
<input type="checkbox"/> 確認用				

この表の場合、真ん中部分が他と比べて非常にシンプルになっていますので、左図のように上段と中段、そして下段の3つに分けて枠を設定するとよいでしょう。

※全ての枠を「表領域」と設定してください。

認識結果をデータ転送で「Excel」に貼り付けると下図のようになります。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		ENGINEERI	番号	MDD-315					
2						1月1日			
3					訂正回数	日付			
4	納先	山田商事株式会社			1				
5					2				
6	品名	Sample原稿			3				
7						この資料及びこの資料に基づく技術情報			
8	題名	OCRとは				などの出力を転写、第三者へ公表しない			
9						ようお願いします。			
10	OCR(OpticalCharacterRecognition、オーシーアール、光学文字認識)とは、手								
11	書きや印刷された文字を、イメージスキャナによって読みとり、コンピュータが利								
12	用できるデジタルの文字コードに変換する技術です。								
13	これまでパソコンのソフトとして発展して来た分野は、決ったアルゴリズムの計算								
14	処理を、速いスピードで実行するという、人間にとってきわめて不得意な部分でし								
15	た。これと反対方向の、人間にとって得意な分野であるパターン認識(文字認識								
16)をソフトで実現したのがOCRソフトです。								
17	用途		発行先						
18	<input type="checkbox"/> 承認用	○・○	11●	作成日	2003,04,21				
19	<input type="checkbox"/> 参考用	●●	■●1	担当	鈴木				
20	<input checked="" type="checkbox"/> 検討用	●●1	●						
21		;	;						
22	<input type="checkbox"/> 確認用	●●	●●						
23		■1	■						
24		;	控;1						

データ転送せずに RTF 形式で保存を行うと下図のようになります。

表原稿の場合は RTF のオプション「罫線出力」のチェックは付けません。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		ENGINEERING SHEET	番号	MDD-315					
2						1/1			
3						訂正回数	日付		
4	納先	山田商事株式会社			1				
5					2				
6	品名	Sample原稿			3				
7						この資料及びこの資料に基づく技術情報			
8	題名	OCRとは				などの出力を転写、第三者へ公表しない			
9						ようお願いします。			
10	OCR(Optical Character Recognition、オーシーアール、光学文字認識)とは、手								
11	書きや印刷された文字を、イメージスキャナによって読みとり、コンピュータが利								
12	用できるデジタルの文字コードに変換する技術です。								
13	これまでパソコンのソフトとして発展して来た分野は、決ったアルゴリズムの計算								
14	処理を、速いスピードで実行するという、人間にとってきわめて不得意な部分でし								
15	た。これと反対方向の、人間にとって得意な分野であるパターン認識(文字認識								
16)をソフトで実現したのがOCRソフトです。								
17	用途		発行先						
18	<input type="checkbox"/> 承認用				作成日	2003,04,21			
19	<input type="checkbox"/> 参考用				担当	鈴木			
20	<input checked="" type="checkbox"/> 検討用								
21									
22	<input type="checkbox"/> 確認用								
23									
24									

OCR(Optical Character Recognition、オーシーアール、光学文字認識)とは、手書きや印刷された文字を、イメージスキャナによって読みとり、コンピュータが利用できるデジタルの文字コードに変換する技術です。

これまでパソコンのソフトとして発展して来た分野は、決ったアルゴリズムの計算処理を、速いスピードで実行するという、人間にとってきわめて不得意な部分でした。これと反対方向の、人間にとって得意な分野であるパターン認識(文字認識)をソフトで実現したのがOCRソフトです。

用途	発行先	作成日	担当
<input type="checkbox"/> 承認用		2003,04,21	
<input type="checkbox"/> 参考用			鈴木
<input checked="" type="checkbox"/> 検討用			
<input type="checkbox"/> 確認用			

右図の場合、下記の修正を行っています。

- ・表部分の位置補正
- ・下段の表部分より 1 行削除
- ・誤認識部分 (●や■) の削除

e. Typist v.9.0 で同様に作業を行うと下図のように再現できます。

下図の場合は、表部分の位置および幅の補正を行っています。

ENG曹NEE縫馨NGSHEET		番号	MDD-315		
					1/1
	山田商事株式会社	訂正回数	日付		
納先		1			
		2			
品名	Sample原稿	3			
題名	OCRとは	この資料及びこの資料に基づく技術情報などの出力を転写、第三者へ公表しないようお願いします。			
<p>OCR (Optical Character Recognition、オーシーアール、光学文字認識) とは、手書きや印刷された文字を、イメージスキャナによって読みとり、コンピュータが利用できるデジタルの文字コードに変換する技術です。</p> <p>これまでパソコンのソフトとして発展して来た分野は、決ったアルゴリズムの計算処理を、速いスピードで実行するという、人間にとってきわめて不得意な部分でした。これと反対方向の、人間にとって得意な分野であるパターン認識 (文字認識) をソフトで実現したのがOCRソフトです。</p>					
用途	発行先				
<input type="checkbox"/> 承認用				作成日	2003. 04. 21
<input type="checkbox"/> 参考用				担当	鈴木
<input checked="" type="checkbox"/> 検討用					
<input type="checkbox"/> 確認用					
			控		